

## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名： ステンケヤ 中和剤  
 会社名： 株式会社 タセト  
 住所： 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前 100-1  
 担当部門： 化学品技術部  
 電話番号： 0466-29-5638  
 FAX番号： 0466-29-5630  
 緊急連絡先及び電話番号： 同上  
 推奨用途及び使用上の制限： 弱酸性電解研磨液の中和剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性：	引火性液体	区分外
	* 記載のない物理化学的危険性は、分類対象外か分類できない。	
健康有害性：	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入：気体)	分類対象外
	急性毒性(吸入：蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外【国連GHS分類 区分3】
	眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	生殖毒性・授乳に対する 又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(腎臓、肝臓)
環境有害性：	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性(急性)	分類できない
	水生環境有害性(長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

## ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(腎臓、肝臓)の障害

注意書き： 【安全対策】

使用前に取扱説明書(カタログ等)を入手すること。  
全ての安全注意(本SDS等)を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん/ミスト/蒸気を吸入しないこと。  
取扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
必要なとき以外は、環境への放出を避けること。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。  
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。  
 【保管】 子供の手の届かないところに置くこと。  
 容器を密閉して、涼しく換気の良い場所で保管すること。  
 【廃棄】 内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って産業廃棄物として処理すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物  
 成分及び含有量：

化学名（成分名）	濃度（wt%）	CAS No.	官報公示整理番号 （化審法・安衛法）	PRTR法 <sup>1)</sup>
水	80～90	7732-18-5	—	非該当
炭酸塩	1～10	非公開	非公開	非該当
多価アルコール	5～15	非公開	非公開	非該当
着色剤	<1	非公開	非公開	非該当

危険有害成分：

- I) 化学物質排出把握管理促進法 非該当  
 II) 労働安全衛生法 57条の2 通知対象物質：なし

### 4. 応急措置

吸入した場合： 直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。  
被災者を毛布等でおおい、呼吸しやすい姿勢で安静にする。  
気分が悪い時は、医師の治療を受ける。

皮膚に付着した場合： 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。  
速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗い、医師の診察を受ける。  
皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は医師の手当てを受ける。  
汚染された作業衣は作業場から出さない。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。

眼に入った場合： こすらずに、水で数分間注意深く洗い、医師の手当てを受ける。  
コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。

飲み込んだ場合： 直ちに、医師に連絡する。  
口をすすぎ、うがいをする。  
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。  
多量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。  
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

急性症状及び遅発性症状  
の最も重要な徴候症状： 吸入：咳、咽頭痛  
皮膚に付着：発赤  
眼に付着：発赤、痛み  
経口摂取：灼熱感、吐き気、嘔吐

### 5. 火災時の措置

消火剤： 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類  
 使ってはならない消火剤： 棒状放水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）

特有の消火方法： 本品自体は不燃性。火災にさらされた時には、大量の水で消火する。  
一般的な消火方法でよく、限定しない。  
周辺火災の場合は容器を安全な場所に移動する。  
消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

消火を行う者の保護： 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置： 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
風上から作業をし、漏出した場所の周囲には、関係者以外の人の立ち入りを禁止する。  
密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項： 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。  
環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法・機材： 危険でなければ漏れを止める。  
漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。  
少量の場合、漏出液はおがくず、ウエス、砂等に吸収させて処理する。

二次災害の防止策：  
多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、バキューム車等で回収する。  
全ての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策：  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
局所排気・全体換気：  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。  
安全取扱注意事項：  
全ての安全注意(本SDS等)を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん／ミスト／蒸気を吸入しないこと。  
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしないこと。  
接触回避：  
「10. 安定性及び反応性」を参照。  
衛生対策：  
取り扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。  
保管 技術的対策：  
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
安全な保管条件：  
容器は直射日光や錆の発生しやすいところを避けて保管する。  
容器を密閉して換気の良い場所で保管する。  
安全な容器包装材料：  
ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：  
設定されていない  
許容濃度(ばく露限界値)  
日本産業衛生学会(2015年版)： 設定されていない  
ACGIH(2015年版)： 設定されていない  
設備対策：  
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合、換気装置を設置すること。  
保護具 呼吸用保護具：  
必要ならば有機溶剤用の防毒マスクを用いること。  
手の保護具：  
保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。  
眼の保護具：  
適切な眼の保護具を着用すること。  
保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。  
皮膚及び身体の保護具：  
適切な保護衣(前掛け)、顔面用の保護具を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：  
藍色透明液体  
臭い：  
ほぼ無臭  
pH：  
10～11 (アルカリ性)  
融点・凝固点：  
データなし  
沸点、初留点及び沸騰範囲：  
100°C (水としての推定値)  
引火点：  
水溶液であり、引火しない。  
蒸発速度：  
データなし  
燃焼又は爆発範囲：  
データなし  
蒸気圧：  
データなし  
蒸気密度(空気 = 1)：  
データなし  
比重(密度)：  
1.1  
溶解度：  
水に可溶  
n-オクタノール／水分係数：  
データなし  
自然発火温度(発火点)：  
データなし  
分解温度：  
データなし  
粘度：  
データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性：  
通常取扱条件において安定である。  
危険有害反応可能性：  
酸類と反応して、二酸化炭素を発生する。  
避けるべき条件：  
日光、熱、強酸

混触危険物質： 強酸  
 危険有害な分解生成物： 燃焼等で強熱分解すると、一酸化炭素、二酸化炭素等のガスを発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口)： 急性毒性推定値(ATEmix) >5,000 mg/kgのため、区分外とした。  
 急性毒性(経皮)： 急性毒性推定値(ATEmix) >5,000 mg/kgのため、区分外とした。  
 急性毒性(吸入:気体)： 分類対象外  
 急性毒性(吸入:蒸気)： 有用な情報がなく分類できない。  
 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)： 有用な情報がなく分類できない。  
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性： 炭酸塩：ウサギを用いた皮膚刺激性試験(Draize test)で、刺激性あり(irritating)の結果により区分2に該当する。  
 区分2に分類される成分が1.0%以上、10%未満のため、区分3に該当する。しかし、対象国(日本)危険有害性区分補正処理により、区分3から区分外とした。  
 炭酸塩：ウサギのDraize試験で刺激性あり(irritating)の結果により、区分2Aに該当する。  
 区分2Aに分類される成分が10%未満で、毒性において未知の成分が含まれているため、分類できないとした。  
 眼に対する重篤な損傷性  
 又は眼刺激性： 炭酸塩：ウサギのDraize試験で刺激性あり(irritating)の結果により、区分2Aに分類される成分が10%未満で、毒性において未知の成分が含まれているため、分類できないとした。  
 呼吸器感受性： 有用な情報がなく分類できない。  
 皮膚感受性： 有用な情報がなく分類できない。  
 生殖細胞変異原性： 有用な情報がなく分類できない。  
 発がん性： 有用な情報がなく分類できない。  
 生殖毒性： 多価アルコール：マウスを用い交配前からのばく露による2世代生殖試験において、同腹児数の減少に加え、脳ヘルニア、口蓋裂の頭蓋顔面奇形が観察された(DFGOT vol.10 (1998))。口蓋裂はハムスターの妊娠8日目の腹腔内投与でも報告されている(DFGOT vol.10 (1998))。これらの影響が現れた用量では同時に母動物の体重減少、ハムスターでは死亡が見られ(DFGOT vol.10 (1998))、即ち、親動物での一般毒性が発現する用量で明確な生殖毒性が記述されていることから区分2に該当する。  
 区分2に分類される成分が3.0%以上含まれているため、区分2とした。  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露)： 有用な情報がなく分類できない。  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 多価アルコール：ラットの反復経口ばく露による特徴的な所見として、尿酸の排泄増加とともに尿中に尿酸カルシウム結晶が形成され、腎障害(ネフローゼ)が見られたと報告されている(DFGOT vol.10 (1998))。ばく露が長期に及ぶと膀胱結石も観察され、また、腎臓に比べ軽度ながら肝障害の記述も一部にある(PATTY (5th, 2001))。しかし、これらの影響はいずれもガイドランス値範囲のカットオフ値(100 mg/kg/day)を超えたかなり高用量における所見である。一方、ヒトでは本物質のばく露に関して複数の疫学調査が実施され、それらの結果によれば、多数の死亡例、進行性の腎障害と最終的に腎不全、一部の報告では肝障害が報告されている(DFGOT vol.10 (1998))。以上、ラットの反復ばく露の所見を考慮に入れ、ヒトの疫学調査の結果に基づき区分1(腎臓、肝臓)に該当する。  
 区分1(腎臓、肝臓)に分類される成分が10%以上含まれているため、区分1(腎臓、肝臓)とした。  
 吸引性呼吸器有害性： 有用な情報がなく分類できない。

## 12. 環境影響情報

生態毒性： 水生環境有害性 (急性) 有用な情報がなく分類できない。  
 水生環境有害性 (長期間) 有用な情報がなく分類できない。  
 残留性・分解性： データなし  
 生体蓄積性： データなし  
 土壤中の移動性： データなし  
 オゾン層への有害性： 有用な情報がなく分類できない。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。  
 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。  
 汚染容器及び包装： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

**14. 輸送上の注意**

## 国際規制

海上規制情報:	IMOの規制に従う。
航空規制情報:	ICAO/IATAの規制に従う。
UN No.(国連番号):	非該当
Proper Shipping Name(品名):	—
Class(国連分類):	—
Packing Group(容器等級):	—

## 国内規制

陸上規制情報:	消防法ほか法令の規制に従う。
海上規制情報:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報:	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号:	—
特別の安全対策:	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 重量物を上積みしない。

**15. 適用法令**

労働安全衛生法:	表示対象物質：非該当 (法第57条、施行令第18条第1号別表第9) 通知対象物質：非該当 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 有機溶剤中毒予防規則：非該当 特定化学物質障害予防規則：非該当
消防法:	非該当
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法: (PRTR法)	非該当
水質汚濁防止法により、有機物負荷排水を直接環境へ放出することは規制されている。 下水、河川、海、土壌中に直接廃棄することはできない。	

**16. その他の情報**

## 参考文献等:

- 1) 中央労働災害防止協会「GHSモデルMSDS情報」
- 2) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
- 3) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 4) JIS Z 7252:2014「GHSに基づく化学品の分類方法」
- 5) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 6) 許容濃度の勧告(2015)、日本産業衛生学会
- 7) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices、ACGIH(2015)
- 8) ㈱タセト 社内資料(原材料SDS)

**記載内容の取扱い**

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。